

にこにこ通心



令和2年1月 vol.97

みなさん、お久しぶりです！5ヶ月ぶりに書くことができました。
今年もマイペースでいきます。よろしくお願いいたします

我以外皆我が師なり

昨年9月、高2の甥、子(颯)の秋季高校野球石川県大会を観に行った。
準々決勝。今日勝てば史上初？の北信越大会出場が決まる大事な試合。
試合開始1時間前。父(颯の祖父)と僕は既に会場にいた。練習がみたいという父の爺心で
聞いていた背番号をさがす... あ！いた！15番！颯もここに気づき手を振る。



背番号15は控えの番号である。父に聞くと、いつも一塁のランナーコーチを任されているという。
「ど、か。試合には出られないのが。でもいい。颯のランナーコーチを頑張る姿を応援しよう、
1回裏に先取点を取られるも4回、6回に2点ずつを入れ4-2でリード。

颯も声出しやランナーのサポート、攻守交代時の全力疾走。
一塁ランナーコーチという役に全力で向き合っているのが分かる。
野球に限らず、スポーツはテレビで映る場面だけを見ることが多い。実際に見てみると、
試合に出てる選手以外の裏方の働きがあって成り立っていることがよく分かる。
控え組はレギュラー組が試合で最高のパフォーマンスを出せるようサポートし、
レギュラーは控えの気持ちを胸にワンチームで試合に臨む。

ハラハラドキドキの試合展開。高校野球で2点差はあってないようなもの。
6回7回に2点をずつ入れられ4-6。逆転をゆるす。と、8回表リニアアウト。
一塁ランナーコーチの颯がベンチに向かって走ってくる。ん？なにになに？ケガか？
その謎はすぐに解けた。8回表終了後「サード〇〇君に代わり勝裕君」
の場内アナウンス。電光掲示板に「勝裕」の文字が。



TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	R
栗丘	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4
津幡	1	0	0	1	0	2	2	0	0	0	6
5 6 7 8 9											
3 6 1 2 5											
栗山 木久勝											
谷口 村田裕											

颯が試合に出ている。北信越のガガ、た大事な試合。
小さい頃キャッチボールをした時、ひよひよなボールしか投げられなから、た颯。
年に1度スキーに連れて行くと、車内でお兄ちゃんといつもケンカをし泣いていた颯。
その颯が守備練習でサードからファーストへ矢のような送球をしていた。
ジーンとこみあげてくるものがあった。

残念ながらボールは飛んでこなかった。いや、むしろ飛んでこなくてホッとした。(おじの心境笑)
試合には負けたけど、たまにしか会えない甥の成長に嬉しさがこみあげてきた。

「与えられた場所で全力を尽くすこと」
いつどんな時も状況を打開する最も大切なこと。
応援に来たつもりが逆に勇気ももらっていた。颯、ありがとう！！

